

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

～調べ学習から発表までteamsや学習支援ソフトを用いて主体的で深い学びにつなげる～

- teamsの投稿（チャット機能）を使って、リアルタイムで児童の気付きや疑問を共有し、テレビ画面に映して常にチャットの確認ができるようにした。
- 学習支援ソフトでは、成果物をクラウドで共有した。

3年 算数科 単元名「三角形」 場所「学校図書館」
めあて「みのまわりから、円や球、二等辺三角形や正三角形の形を見つけ分けよう。」

(teamsのチャット機能を活用した取組実践)



<成果>

- ・チャット機能を使うことで、活動中での気付きや困りが教師もすぐに気付いて動くことができました。
- ・提出箱を共有することで、どの子も友達の考えを見ることができ、そこで気付いたことがあれば、質問をしに行って解決することができました。

(学習支援ソフトを活用した取組実践)

本や一人一台端末を使って、図形を見つけ分ける学習。気付いたことはチャットを使って伝え、図形の分類はクラウドで共有した。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

～めあてを確認し、児童が学習の方法を選択し、teamsや学習支援ソフトで学びの共有～

- この時間で何を学ぶのかを確認した後に、学習方法を選択し、個別最適な学びの充実に取り組んだ。
- 分からないことや質問をクラウド上で他者参照し、深い学びや協働的な学びにつなげることができた。

見通し
<どのようにみつける？>

- ・本、パソコン・周りを見る
- ・写真をとる
- ・チャットやロイノードで伝える。

めあて
みのまわりから、円や球、二等辺三角形や正三角形の形をみつけ分けよう。

どの教科もめあての確認をする。学習方法や見通しを立てて、児童がめあてに沿って学習するための最適な方法を選んで学習する。

- メインチャンネル
- 一般
 - 01_国語
 - 02_算数
 - 03_社会

クラスのteamsで各教科でチャンネルを作って、気付きや質問を投稿できるようにした。

まとめる時には、教科書に線を引く子、ネットで調べた子、ノートにまとめた子、様々な形で共有される。



一人一台端末を使って調べたり、まとめたりしている。友達に聞きに行ったり、一人でじっくり学習したりして、それぞれが解決するために最適な学習をしている。

<成果>

- ・学習の方法を児童自らが選択、決定するため、主体的に学習するようになった。また、疑問や質問も教師に聞く以外にも児童同士で行うようになった。
- ・教師側は、teamsの投稿やクラウドで共有された情報を見ながら、個々の学習の様子を見回り、アドバイスや素敵なおところをみんなに伝えることで、さらに深い学びにつながった。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施」

～慶應義塾大学のサイバー防犯ボランティア研究会による情報モラルオンライン授業～

オンライン教室に向けて



<事前打ち合わせ>

慶應義塾大学のサイバー防犯ボランティア研究会の方々と情報モラルオンライン授業の打ち合わせの様子。各学年の児童の実態や課題を伝え、それに合わせて、授業を組み立てていく。事例を紹介してもらい、丁寧に打ち合わせを行い、略案の作成を行った。

<オンライン授業当日>

情報モラルに関するトラブルの事例を挙げ、この後考えるための導入を行う。低学年のテーマは「個人情報」「ゲーム依存」、高学年のテーマは「スマートフォン、SNSとの付き合い方」とした。



<グループワーク>

トラブルが起こった原因やそれに対する対策をグループで話し合い、まとめる。話し合ったことを伝える。

グループワークや話し合いの中で、オンラインゲームやSNSを行うときに気を付けることや守っていることなど事例に沿って具体的な話し合いになった。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

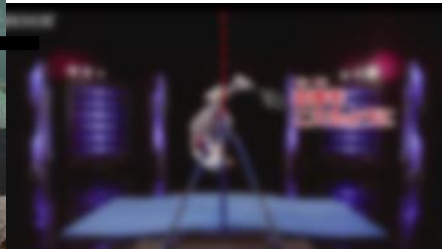
京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施」
～NHK for schoolを用いて授業に生かす～

- 体育科では、授業の導入で、NHK for schoolの動画を視聴し、体の動きや注意点を確認するケースがある。
- 復習やまとめで、動画を視聴し、さらに学びを深めることができた。

<体育科：てっぼう運動>

活動の前に教室で一人一台端末を使った予習をする。回り方やコツを**動画**で見ることで、イメージを膨らませながら活動に結び付けます。



予習したのちに、外に出て実践する。もう一度確認したい子のため、一人一台端末を外に持っていくこともある。

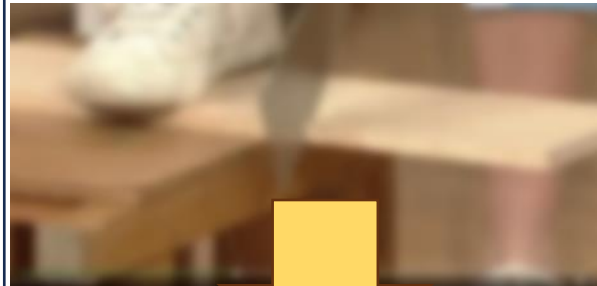


先生の解説・**動画**・学習カードに友だちのアドバイス、上手になれるよう、色々な工夫をしながら練習をしている。



<図画工作科：ギコギコトントンクリエイター>

のぎりの正しい使い方を**動画**で学習したあと、安全に気を付けて木を切っていく。



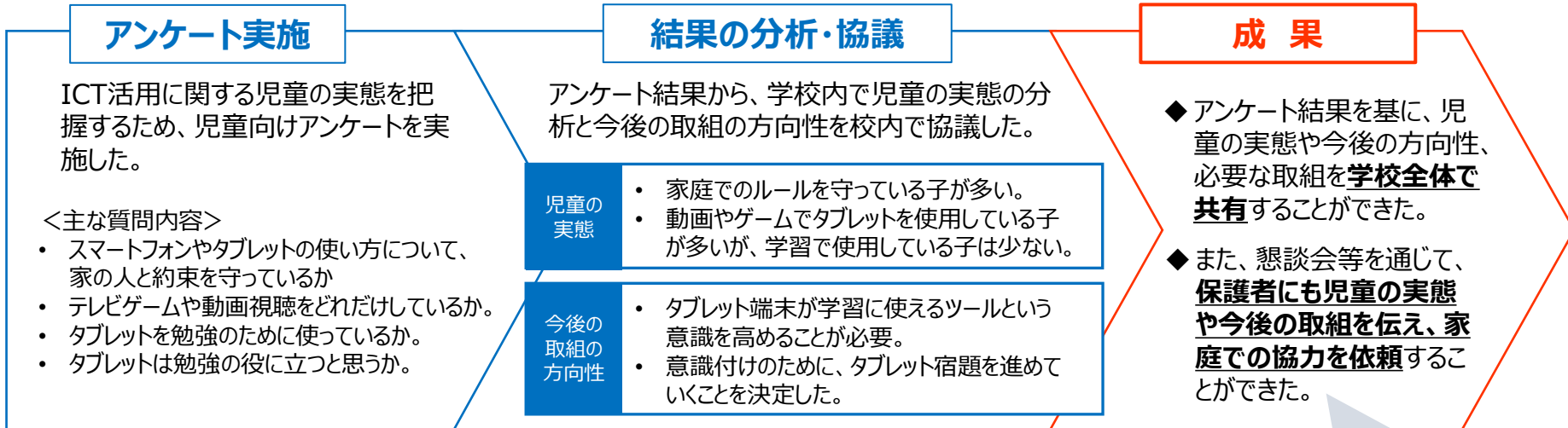
最初は難しく感じている子も多かったですが、授業の終わりには「だんだん慣れてきた！」という声も聞こえてきた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

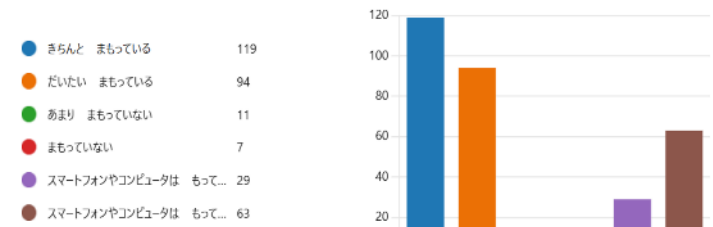
【取組内容⑤】 地域や家庭と協力し合っ行うデジタルシティズンシップ教育 ～デジタル機器の利用実態に関する児童アンケートの実施～

- 児童のデジタル機器の利用実態を調査するため、Microsoft Formsを利用したアンケートを実施。アンケート結果を基に、教職員間で結果の分析・今後の取組の方向性の協議を行った。
- また、保護者とも児童の実態や今後の取組の方向性を共有し、家庭での協力を依頼した。



Formsを利用したアンケートの様子

スマートフォンやコンピュータのつかいかたについていえの人とやくそくしたことをまもっていますか。



多くの児童が守っている。

＜家庭へ依頼した協力内容＞

- ・ 家庭内のルールを決める際は、「唐橋ねっとルール」を参考に子どもと話し合っ決めていただきたい。
- ・ オンラインゲームやSNSでの投稿や発言などについては、保護者の管理下で子どもたちが使用するようお願いしたい。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容⑤】 地域や家庭と協力し合っ行うデジタルシティズンシップ教育 ～「唐橋ねっとルール」を用いた児童・家庭・地域への啓発～

- 令和2年度に「唐橋ねっとルール」を作成し、毎年、児童の実態に応じてアップデートを実施。本ルールを活用して、毎年、年度初めに全学年で指導を行うとともに、授業等でICTを活用する際の指針として、随時、指導に活かしている。
- 「唐橋ねっとルール」は保護者にも配布し啓発を行うとともに、学校HPへの公開や学校運営協議会等の機会を通じて地域にも公開することで、学校・家庭・地域での一体的な取組を進めていく（一部予定含む）。

保存版

唐橋小学校の全家庭で取り組む事業

唐橋ねっとルール

「唐橋ねっとルール」は、児童の健全なコミュニケーション能力の育成とスマホ等によるネットでのトラブルを避けるために、子どもたちが使用するスマートフォンやタブレットにおいて、家庭でルールを決め、正しく安全なネット利用を促進することを目的とします。

<共通のルール>

- 1 スマホ等のネット利用時間を家庭で決める。
- 2 家族以外（子ども同士）でのネットを使っている連絡等は夜8時までとする。
- 3 SNSの利用（画像・動画・書き込みなど）については、必ず保護者が責任をもち、各種設定についても保護者が行う。
- 4 フィルタリングサービスを利用する。（あんしんフィルター）
<ネット接続するゲーム機を含む>

<各家庭のルール>
上記以外のルールについても、必ず各家庭にて児童と一緒にお考えください。

「唐橋ねっとルール」を活用した児童への指導

- 「唐橋ねっとルール」を活用し、年度当初に道徳や学級活動の時間等を利用して、低学年であれば一人一台端末使用のルールとして説明したり、高学年であれば実際のトラブル事例などとともに児童同士で意見交換を行ったり、学年等に応じた指導を実施している。
- また、授業等でICTを使用する際の指針としても活用し、授業内容に合わせて、個人情報への取扱いや著作権、インターネットとの付き合い方について指導を行っている。

夏休み前日の学級指導の様子



保護者への啓発、地域への公開も

- 保護者に対しても、懇談会等において「唐橋ねっとルール」を配布し、スマートフォンやオンラインゲームの不適切な利用・過度な利用等についての注意喚起や保護者と教職員での意見交換を行うなど啓発に努めている。
- また、学校HPでの公開や学校運営協議会等の機会を通じて、地域にも必要な取組とともに紹介を行っている。

学校HPで地域へも公開



リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容⑤】 研究成果の積極的な全市発信

- 市内全ての小・中学校の**GIGAスクール推進主任を対象にオンデマンド型の動画配信研修を実施**。
本校を含むLDX指定校（京都市：小2校、中1校）が取り組んでいる研究成果を全市発信した。
- 併せて、LDX事業の開始時に指定校3校合同で実施したキックオフ研修会の内容についても、講演者の許諾をいただいたうえで全市公開し、他校における次年度のICT活用に向けた意識付けに活用いただけるようにした。

学習面・校務面などあらゆる場面での一人一台端末の活用

端末の文房具化が進み、子どもが主語となっている学びの姿をたくさんの写真を使って紹介。



教員研修も「自ら学ぶ」。個別の動画視聴やクラウド上での意見交流など、ICT活用を通じた教員研修の充実についても紹介。



テーマは「今までの自分を超越る」。
ICTを活用した授業計画(PLAN)→授業実践(Do)→生徒アンケートや公開授業・研究授業での評価・改善(Check)→次の授業に向けた課題提示(Action)のサイクルによる全教職員のスキルアップの実践を紹介

地域や家庭と協力し合って行うデジタルシティズンシップ教育



積極的な端末活用とともに故障やトラブルの可能性も増加。
LDX事業の指定を受け、特にデジタルシティズンシップ教育に重点的に取り組むこととなった経過を説明。



研究開始時に児童アンケートによる客観的な実態把握を行ったことこの紹介。

- ①家庭でのルールは守っている子が多い
- ②自由なゲーム(娯楽)で使っている子が多い
- ③学習で使っている子は少ない



人権参観懇談会当日の授業映像も交え、児童が情報機器とうまく付き合う方法を主体的に考える授業の様子を紹介。

外部講師によるご講演もアーカイブ配信で取組を波及！

R5.5月にLDX指定校の3校合同キックオフ研修会を実施。研究の開始にあたり多くの示唆をいただきました。
ご講演内容については、許諾をいただいたうえでアーカイブ配信を実施し、指定校以外にも積極的に取組を波及させています。

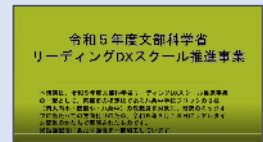
岐阜聖徳大学 教授 玉置崇 先生「学校を元気にするGIGAスクール構想であるために」

(ご講演の主な内容)

- ◆GIGAスクール構想を理解する
 - ・なぜ一人一台端末なのか
 - ・なぜ高速ネット回線なのか
 - ・なぜクラウドなのか
- ◆授業における一人一台端末の活用例
 - ・働き方改革
 - ・個別最適な学び
 - ・つながることの容易さと拡大
 - ・学習の自己調整、振り返りの大切さ
- ◆情報モラル教育の次の段階を知る

京都市教職員以外もご覧いただけます

右図もしくは [こちらをクリック](#)



教科の枠を超え、全ての教員がICT活用の実践を交流し、授業改善につなげる